



恵信尼さま（本願寺蔵）



整備された恵信尼公廟所

親鸞さまと恵信尼さま

親鸞さまの慣れない越後での生活を支えられたのは、恵信尼さまでした。

恵信尼さまとのご結婚の時期については、京都での説と越後での説があります。九条家に仕えていた教養の高い女性であったとか、越後の豪族・三善氏の息女とも伝えられています。

恵信尼さまは、親鸞さまより九歳年下でした。六人のお子さまに恵まれていたことが、本願寺に伝わる「系図」に記載されています。お顔をじっと見つめていますと、まろやかで温かなお声が聞こえてくるようです。

親鸞さまとお師匠さまである法然聖人が「妻帯」についてお話しされた一節があります。

「妻帯してよいでしょうか」と問う親鸞さまに、

「聖（僧）としてお念仏申せないならば妻帯して申せ、妻帯して申せなくば僧で申せ……衣食住はお念仏申すためのものである」と法然聖人は仰せられました。

親鸞さまは、そのお言葉を受けてでしょうか、六角堂での「女性と結ばれることがあるなら、私（救世観音）が玉のような女性となりましょう……」という夢のお告げを信じて生活されたのです。

恵信尼さまも、夫・親鸞さまを観音菩薩の化身だと生涯敬い、信じ抜かれました。ご結婚により父となり、夫となる喜びと苦悩、そして恵信尼さまを通して女性の目、